

健康せいらう21・聖籠町まるごと食育推進計画・聖籠町生涯歯科保健計画  
平成25年度～平成29年度評価

計画策定時（平成24年度）に設定された事業の取り組みを中心とした目標について、設定時の値と直近の値（各事業データ・健康に関する意識調査の結果等）を比較し、達成率・改善率を勘案して目標に対する達成状況について評価を行いました。  
**目標達成した項目、改善した・改善傾向にある項目は、全体の44.3%**となっています。一方で、**悪化した・変化がほとんどなかった項目が31.0%**あり、特に「栄養・食生活」で39.4%、「身体活動・運動」で43.5%、「休養・こころの健康」で75.0%と悪化した・変化がほとんどなかった項目が多かった結果でした。評価指標の設定も含め、引き続き改善に向けた取り組みが必要です。  
今後の取り組みについては、「健康せいらう21」・「聖籠町まるごと食育推進計画」・「聖籠町生涯歯科保健計画」の平成30年3月改定の計画をご参照ください。

1 健康評価指標 全体の達成度【3計画 全174項目】

評価区分	達成度の判断基準			該当項目数	割合
	達成度	達成率	改善率		
A	目標値に達した	100%以上	90%以上	30	17.2%
B	目標値には達していないが、改善した	-	50%以上	8	4.6%
C	改善傾向にある・達成に近い	80%以上100%未満	10%以上50%未満	39	22.4%
D	変化なし・達成までやや遠い	50%以上80%未満	-10%以上10%未満	28	16.1%
E	悪化した・達成まで遠い	0%以上50%未満	-10%未満	26	14.9%
参考値	今回初めて調査した、設問(聞き方)を変えたため、平成24年度と比較できない			13	7.5%
評価不可	未調査のため、平成24年度と比較できない			30	17.2%
				174	

44.3%  
31.0%

2 各分野評価後の課題

健康分野	聖籠町民の姿・課題	評価結果							
		A	B	C	D	E	参考値	評価不可	
<b>栄養・食生活・食育</b> <b>(聖籠町まるごと食育推進計画の評価含む)</b> <b>【33項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食を欠食する人の割合は30代男性では増加し、働き盛り世代の課題となっています。</li> <li>主食・主菜・副菜のそろった食事(1日2回以上)が出来ていない成人は3割でバランスよく摂取できない状況です。子どもたちも同様に課題であり、望ましい食習慣の定着と継続には、生涯にわたり取り組んでいく必要があります。</li> <li>塩分過多・多量飲酒の状況がアンケートや町民の暮らしから見えます。</li> <li>適正体重については男性に20～60代の肥満は横ばい、40～60代の女性の肥満は増加していて、食生活が密接に関わって可能性があります。</li> <li>栄養バランス、減塩、適正アルコール摂取、野菜摂取の推進に重点をおき、すべてのライフステージにおいて普及啓発していく必要があります。</li> <li>学校の農作業体験等の「生産者」と「消費者」の交流活動も定着し継続されていますが、より一層活性化し、感謝の心や郷土愛を醸成するような食育活動をすすめることが大切です。</li> <li>生産者の役割や食の大切さを伝えるため、地域全体での受け入れ体制づくりや体験交流の指導者の確保や食に関するボランティア組織の育成などをさらに進めていく必要があります。</li> <li>町の総農業数は減少傾向にあり、学校給食にさらに地場産物の利用促進をするためには、里芋や長ネギ等の農産物の安定・継続供給が課題となります。</li> <li>「地産地食」をさらに進めるためには、消費者の需要に応じた直売場や地場産物販売等の拡充など生産体制維持のための対策や販売促進につながる魅力あるものに工夫していく必要があります。</li> <li>町の農林水産業等への理解を深めるため、望ましい食事の選択や食料の生産等に係る人々に対し、感謝の心を育む取り組みをさらに進める必要があります。</li> <li>家庭・地域・学校・各種イベント等で地元産物の消費拡大のため、地元産物の魅力を町内外に発信していく必要があります。</li> <li>食育への関心や実践度は増加傾向にありますが、核家族の増加や地域のつながりの変化、労働形態の変化から、家庭における「食」についての知識や経験、また食文化の伝承していく力は弱まりつつあります。</li> </ul> 家庭だけでなく、地域や学校、職域、社会全体で「食育」への取組に関心を高めることがまだまだ必要です。	4	1	7	8	5	2	6	33
		12.1%	3.0%	21.2%	24.2%	15.2%	6.1%	18.2%	100.0%
		36.4%		39.4%					
<b>身体活動・運動</b> <b>【23項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習慣的に運動している割合が減少しています。</li> <li>「子育てとの両立」「仕事・家事との両立」ができれば運動したいと考えている人は多くなっています。</li> <li>子育て世代、働き盛り年代の男女の運動習慣につながる環境づくり、意識づけが必要です。</li> <li>「運動・スポーツ」だけでなく、家事や労働等の生活活動量も含めた身体活動量と健康維持・増進の関連を広く普及させる必要があります。</li> <li>子どもの頃から体を動かしたあそびを通じた、体力づくり・体幹づくり・習慣化が必要です。</li> </ul>	5	0	2	3	7	4	2	23
		21.7%	0.0%	8.7%	13.0%	30.4%	17.4%	8.7%	100.0%
		30.4%		43.5%					
<b>休養・こころの健康</b> <b>【16項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十分な睡眠がとれていない人、ストレス解消に関して、対処の仕方がわからない人の割合が増加しています。</li> <li>うつ病に関する正しい認識がある人の割合は、県より高くなっています。</li> <li>こころの不調に気づいたときに、専門の医療機関を受診する人の割合が増加しています。</li> <li>社会情勢の変化に伴い、休養の確保やこころの健康の維持が難しい人の割合が大幅に増えています。</li> <li>ストレスとの付き合い方を理解し、周囲を気にかかけ、困った時に相談行動がとれるように今後も普及啓発が必要です。</li> </ul>	0	0	2	6	6	1	1	16
		0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	37.5%	6.3%	6.3%	100.0%
		12.5%		75.0%					
<b>たばこ・アルコール</b> <b>【32項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県と比較すると喫煙率は高く、特に女性では県より高くなっています。</li> <li>喫煙が及ぼす健康に与える影響の知識を正しく知らない人がいます(胃かいよう、心臓病、歯周病)。</li> <li>家庭・職場・飲食店・遊技場での受動喫煙の機会がある人の割合が高くなっています。</li> <li>たばこの害について情報提供し、禁煙・受動喫煙防止に関する一人ひとりの意識向上に向け、普及啓発が必要です。</li> <li>生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合は、男女共に県と比べてかなり高くなっています。</li> <li>健康と飲酒の関係や適正飲酒や休肝日の必要性について情報提供と実践が必要です。</li> </ul>	5	4	15	0	4	2	2	32
		15.6%	12.5%	46.9%	0.0%	12.5%	6.3%	6.3%	100.0%
		75.0%		12.5%					
<b>歯・口腔の健康</b> <b>(聖籠町生涯歯科保健推進計画の評価含む)</b> <b>【41項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳未満の乳歯でも、むし歯を作ってしまうケースがあります。</li> <li>乳幼児期に、お菓子・甘味飲料等の間食習慣があるケースがあります。乳幼児期の間食・甘味飲料の習慣化は、その家族である大人の習慣から連鎖していると考えられます。</li> <li>むし歯を作ってしまった後も、歯科医院の未受診・生活改善がされず、むし歯の悪化やむし歯本数増加が心配されるケースもあります。その後のフォロー体制の充実が必要です。</li> <li>定期歯科健診や各予防教室の参加、正しい歯みがきと仕上げみがきの継続、フッ化物利用の効果、望ましい食生活習慣等の普及啓発を強化する必要があります。</li> <li>5歳児・12歳児のむし歯有病率は、県平均より高く、特に12歳児は、県下ワースト1位レベルを推移しています。</li> <li>小学生・中学生で歯肉炎有病者がおり、増加傾向にあります。</li> <li>こども園入園以降、間食、特に甘味飲料摂取の習慣化が顕著になります。</li> <li>歯科健診後の歯科医院の受診率は、こども園・小学校・中学校共に目標値より低く、引き続き受診勧告を強化していく必要があります。</li> <li>仕上げみがきは、こども園入園をきっかけに減少しています。歯が永久歯に生え変わる小学校6年生まで大人による仕上げみがきが継続できるように、その必要性を広く周知し、指導強化することが必要です。</li> <li>必要な歯科医院受診、正しい歯みがきと仕上げみがきの継続、望ましい食生活習慣等の普及啓発を強化する必要があります。</li> <li>歯周炎に罹患している者の割合が増加しています。</li> <li>歯周病の健康への影響について、正しく認知できている人は半数以下です。歯周病が影響する健康課題について広く周知が必要です。</li> <li>一口30回かんで食べる人の割合は少なく、必要性和効果の普及啓発が必要です。</li> <li>必要な歯科医院受診の継続、定期的な歯科健診受診、正しい歯みがきと歯間清掃用具の使用、望ましい食生活習慣等の普及啓発を強化する必要があります。</li> <li>60歳で自分の歯が24本以上ある人の割合は県と比べ高いですが、80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合は県より下回っています。</li> <li>男性の60代以降、女性の70代以降に歯の喪失が増えます。</li> <li>固いものも食べられる人に要介護状態の方は少なく、健康な高齢者である傾向があります。</li> <li>必要な歯科医院受診の継続、定期的な歯科健診受診、正しい歯みがきと歯間清掃用具の使用、望ましい食生活習慣等の普及啓発を強化する必要があります。</li> </ul>	12	1	8	6	2	2	10	41
		29.3%	2.4%	19.5%	14.6%	4.9%	4.9%	24.4%	100.0%
		51.2%		19.5%					
<b>健康管理</b> <b>【29項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町国保特定健診受診率は県より高くなっています。</li> <li>がん検診の受診率は県より高くなっていますが、子宮がんや乳がんにと比べて胃・大腸・肺がんの受診率は低くなっています。</li> <li>男性の肥満割合が県・国の目標値より高くなっています。</li> <li>体重測定を定期的に行う習慣がある人の割合は高いですが、血圧測定を定期的に行う習慣がある人は少なくなっています。</li> <li>定期的に自分の健康状態を知り、日常生活を見直すことができるように、健診(検診)の受診勧奨や健診結果の見方の普及が必要です。</li> <li>自分自身・家族の健康に関心を高め、望ましい生活習慣の実践につながるように、町全体の健康課題を町民と共有し、町全体で取り組めるような施策の工夫が必要です。</li> </ul>	4	2	5	5	2	2	9	29
		13.8%	6.9%	17.2%	17.2%	6.9%	6.9%	31.0%	100.0%
		37.9%		24.1%					